

2020 All Japan Intercollegiate Sailing Championships
Individual Game & Single Hand Regatta

2020年度全日本学生ヨット個人選手権大会

2020年全日本学生シングルハンドレガッタ

支援艇ガイド

このガイドは大会を安全に行うための、支援艇へのお願いであり、「規則」ではありません。
また、いずれの記載事項も「規則」を変更していません。



2020年度全日本学生ヨット個人選手権大会
2020年全日本学生シングルハンドレガッタ

大会実行委員会

■ 大会が貸与するデジタル無線機の取り扱い説明

- ▶ 支援艇出艇申告時に、支援艇にデジタル無線機を貸与します。
 - ・ チャンネルロック、通電状態でお渡しします。その場で通信可否を確認下さい。
 - ・ 通信機の保全是、各支援艇の責任でお願いいたします。

「ロック」表示

チャンネルは固定されています。



CH01

運営の通信が傍受できます。

※ 緊急時以外は傍受専用です。発信は行わないで下さい。

- ▶ シグナル・ポートからの指示があった場合、**CH03に変更し送受信を許可します。**

- ② 「ロック」表示が消えていることを確認します。



① ロックボタンを長押し、チャンネルロックを解除します。

- ③ チャンネルダイヤルを回転させて、**CH03**に変更します。



スイッチ、ボリュームダイヤル時計回りに回すと音量が上がります。

- ④ ロックボタンを長押ししてチャンネルをロックします。

通信ボタン

押しながら話して下さい。

頭切れを防止するため、ボタンを
押下後、ひと呼吸置いてから
話してください。



- ▶ 支援艇帰着申告時に、デジタル無線機を返却下さい。
 - ・ 運営役員がその場で作動確認を行いますので、立ち合い確認をお願いします。

■ オフィシャル・ボート一覧

救助体制の冗長性を確保するため、レスキュー 4艇とトーイング 2艇 (曳航専用艇)を配備しています。

配置	艇名	艇仕様	コール・サイン
信号艇	浦風	Hard Boat	シグナル
ピン・ボート	NORO	Hard Boat	ピンボート
1マーク・ボート	日進	Hard Boat	マークワン
2マーク・ボート	ビアンカ	Hard Boat	マークツー
3マーク・ボート	ばあご	Hard Boat	マークスリー
フィニッシュ・ボート	サムライ	Hard Boat	フィニシュ
レスキュー・ボート1	クリスティーナ	Rib	レスキューワン
レスキュー・ボート2	恵風	Rib	レスキューツー
レスキュー・ボート3	グランパス	Rib	レスキュースリー
レスキュー・ボート4	エイボン	Rib	レスキューフォー
トーイング・ボート1	みなはや	Hard Boat	トーイングワン
トーイング・ボート2	高師	Hard Boat	トーイングツー

■ 支援艇一覧

水域	大学名	艇名	艇種	艇全長m
北海道	北海道大学	TSU II	Rib	3.5
東北	東北大学	shokki - v	Rib	5.4
関東	慶應義塾大学	VSR	Rib	5.8
関東	神奈川大学	The RIDE3	Rib	5.8
関東	早稲田大学	ロンスター	Rib	5.8
関東	早稲田大学	豊田自動織機	Rib	5.5
関東	東京工業大学	飛燕	Rib	5.2
関東	法政大学	ピラニア	Rib	5.2
関東	明海大学	明海2	Rib	5.2
関東	明治大学	白雲	Rib	6.2
関東	立教大学	AG-21BR	Hard Boat	6.7
中部	愛知工業大学	海風	Rib	4.8
中部	三重大学	トルネード	Rib	6.0
中部	名古屋工業大学	UMINARI	Rib	5.8
中部	名城大学	オーブ	Rib	5.8
中部	名城大学	東光サンライズ	Sailing Cruiser	6.0
近畿・北陸	京都大学	彩雲	Rib	4.6
近畿・北陸	同志社大学	グランブルー	Rib	5.8
近畿・北陸	立命館大学	Vicky	Rib	5.8
関西	関西学院大学	弦月	Rib	5.5
関西	関西大学	ヤマハ FAST26	Hard Boat	7.8
関西	神戸大学	URIBOW	Rib	4.2
九州	日本経済大学	ダイイチJr	Rib	5.2
九州	福岡大学	SEA MAIDEN	Rib	5.2

■ 海陽ヨットハーバーポンドでのお願い事項

- ・ 出港、帰港時は、「レース艇」「運営艇」優先でお願いします。
- ・ ポンド内はデッド・スローで、引き波を立てない様、お願いします。
- ・ 艇を曳航する場合は、港の入口から離れて他の艇の出入港に支障の出ない場所で係索して下さい。

■ 安全確保に向けた基本方策

- ・ 5Knt - 12Knt : レスキュー 1-4 の4艇での安全管理体制、トーイング 1-2はレース海面保全に専従。
- ・ 13Knt - 16Knt : レスキュー 1-4 の4艇に加えトーイング 1. 2を合流させ、6艇での安全管理体制。
- ・ 17Knt - 23Knt : レスキュー 1-4 の4艇、トーイング 1. 2の6艇に加え支援艇を合流させた安全管理体制。
 - Signal Boatからの指示での「緑色旗」掲揚と、Signal Boatからの通信指示により、支援艇に安全確保のための活動に協力いただきます。
- ・ 24Knt - : 上記に加えジュリーボート2艇を合流させた総員での安全管理体制。
 - Signal Boatからの通信指示により、ジュリー・チームが安全確保に合流。

■ 支援艇との協業での安全確保

- ▶ 16Knt 以下のコンディションでは、大会オフィシャル・ボートのみで安全確保を行います。
(参考：指示22.7)
支援艇は、最初にスタートするクラスの準備信号から、全ての艇がフィニッシュするか、もしくはリタイアするか、またはレース委員会が延期、ゼネラル・リコールもしくは中止の信号を発するまで、【添付図 D】が示す艇がレースをしているエリアの外側にいなければならない。
(参考：指示22.9)
支援艇は、出艇前に大会本部にて、レース委員会より無線機を受け取り、海上では常時無線を傍受していなければならない。貸与する無線機は傍受専用でレース委員会からの救助要請時を除き、発信してはならない。
- ▶ 17Knt を越えたら、レース委員会艇での「緑色旗」掲揚と、レース委員会信号艇からの通信指示により、指示22.8に基づき、支援艇に安全確保のための活動に協力いただきます。
(参考：指示22.8)
レース委員会艇に『緑色旗』が掲揚された場合、『支援艇は、レースをしているエリアを含む全てのエリアにおいて、危険な状態にある艇を可能な限り速やかに救助しなければならない。』ことを意味する。
この場合、指示 22.7 は適用されない。
- ・ レース委員会信号艇の指示で、レスキュー・ボート、トーイング・ボート、支援艇は、通信チャンネルを1CHから3CHに変更、安全確保に向けた交信を解禁します。
 - シグナル・ボートから、3CHを使用して必要な情報を展開します。
- ・ レスキュー・ボートが支援艇を出艇させている大学の艇が危険な状態であると判断した場合、乗員の安全を確保する監視行動を取りながら、該当校支援艇を呼び出します。
 - ① レスキュー・ボートは該当校支援艇が現着するまで、乗員の安全を確保します。
 - ② 該当校支援艇が現着したら、レスキュー・ボートは該当校支援艇に「状況を引き継ぐ」ことを連絡して他の艇の安全確保を行います。
 - ③ 該当校支援艇の現着遅れ、現着不能な状況下で乗員の安全が懸念される場合、レスキュー・ボートは速やかに乗員を救助します。
- ・ 各校の支援艇は、指示22.8に基づく行動をお願いいたします。